

東亞蜘蛛学会第一回大会

講演要旨

東亞蜘蛛学会

於 科学博物館

昭和44年10月5日

ミクロの生物科学

細胞

The Cell

細胞の微細構造を探究する普及誌

特集1号 細胞核 特集2号 光合成
特集3号 ミトコンドリア 特集4号 ウイルス
特集5号 小胞体

連載 電顕発達史・細胞学講座・電顕技術

B5・44頁・総アート 300円(〒10円)

東京都千代田区神田錦町3-21
TEL 294-5673 振替東京21977

ニュー・サイエンス社

*世界の学者から賞賛されている！

保育社の 原色図鑑

◇
新
刊
◇

原色 昆 蛾類幼虫図鑑 (下) 2,200円

A5判・原色68図版・252ページ
一色周知 監修・黒子浩ほか著

原色 昆 昆虫生態図鑑 I カミキリ編 2,200円

A5判・原色56図版・376ページ
小島圭三・林匡夫共著

原色 昆 昆虫生態図鑑 II トンボ編 2,200円

A5判・原色56図版・単色16図版
338ページ 石田昇三著

大阪 保 育 社 東京

中央児童福祉審議会特別推薦図書
全国学校図書館協議会選定図書

カメラでみるしぜん

著者 理学博士 阪口浩平
大手前女子大学教授

ノミ博士で有名な著者が日本の自然を20余年間におたつて撮影し、それを季節ごとにまとめたすばらしい生態写真集です。

全6巻 各巻 定価 380円

B5判 各巻カラ-36頁・単色16頁・解説4頁

1. なつのはじめ 2. な つ 3. あ き
4. ふ ゆ 5. はるのはじめ 6. は る

ひかりのくに昭和出版株式会社 大阪市天王寺区上本町3-2
東京都板橋区板橋1-10

開会の挨拶 植村利夫 (9.00~9.10)

東亜蜘蛛学会会頭挨拶 福井玉夫 (9.00~9.20)

研究発表ならびに講演 (午前の部)

1. 日本産ササラダニ類(隠気門亜目)の記録と研究の現状

(国立科博) 青木淳 (9.20~9.40)

土壌表層に自由生活し、人間の生活に直接の関連をもたないササラダニ類は、その分類学的調査すら永年の間不十分にしか行われていなかった。演者はここ10年あまりの間に日本各地の約700ヶ所の地点から土壌サンプルを採取し、その中よりササラダニ類を抽出して調べた結果、150種以上のものを得ることができた。ここにはそれを総括的に報告し、研究の現状を述べる。

2. クモの空中分散について(空中分散の生態を撮影した8ミリフィルムの映写による)

(朴沢小学校) 錦三郎 (9.40~10.00)

クモの空中分散について、これまでいろいろ説明がなされてきた。Bristowe (1939)やNellsen (1932)は、急激な温度の上昇や高い湿度はクモたちを不快がらせ、遠くへ脱けようと刺激するのではないかと(生理的な解釈)と考えた。Duffey (1956)もまた、空中分散にみちびく最初の刺激は、気温の上昇であろうとした。また、性交渉と分散の時期には深い関係があるなど、空中分散についての重要な資料を数多く提供している。錦(1966)は、造網性・徘徊性というクモの進化と関連して空中分散を考えることができだろうとした。

クモの空中分散が目的的なものか、偶発的随伴的なものか、まだまだ問題が残っていると見えよう。

3. ウズキドクグモの捕食に関する実験的研究

(農技研) 宮下和喜 (10.00~10.20)

ショウジョウバエ, ツマグロヨコバイ, およびトビイロウンカの3種をえさとしてウズキドクグモの捕食を実験的に調査した。

捕食数(または捕食量)とえさ密度との関係は、いわゆる functional response curve で示され、捕食数はえさ密度の増加に比例して直線的には増加しない。3種のえさをいろいろな比率で混ぜた場合、このクモは若干えさに対する好き嫌いを示す。すなわち、トビイロウンカよりショウジョウバエまたはツマグロヨコバイを多く捕食する傾向がある。また、えさの密度や混合の割合が変わると好き嫌いの程度も変化する。これは、クモのえさに対する探索行動とえさとなる種の実験容器内での行動の活発、不活発に關聯してクモとえさ種との接触の機会が変化するためには生ずるものと考えられる。

4. 胚盤期クモ胚の細胞に関する形態学的研究

(東教大) 近藤昭夫 (10.20~10.40)

胞胚期以前のクモ初期胚については胚軸を知ることは全く不可能であるが、収縮胞胚に至ると胚盤形成部域の細胞は概して円柱状又は球状を呈し他の部域と区別できるようになる。種によっては胚盤に第2次胞厚が形成され、これは実験形態学的研究から胚葉分化に重要な役割を果たしていると考えられている。しかるに、胚盤をめぐるこれらの細胞群の特徴については殆んど知られていない。演者は組織学的観察と電顕による観察から、これらの細胞群を胚の他の部分の細胞及び胞胚期の細胞と形態学的側面について比較して論ずる。

5. クモ類の系統について

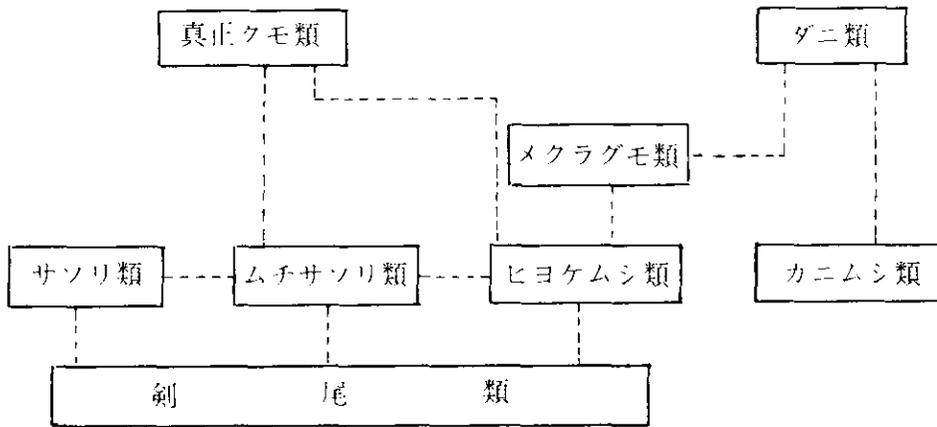
(熊本大) 吉倉 真 (10.40~11.10)

クモ類の系統を比較発生学から考察してみたい。サソリ、ムチサソリ、カニムシ、ヒヨケムシ、真正クモ、メクラクモ、ダニの各目について、まず次の事項を調べてみた。

1. 卵は等黄卵か、端黄卵か、心黄卵か。

2. 卵割は全割か、盤割か、表割か、
3. 胞胚は腔胞胚か、実胞胚か、周胞胚か、盤胞胚か。
4. 囊胚形成は陥入法か、被いかぶせ法か、単極内殖法か、多極内殖法か、葉裂法か。
5. 胚盤形成後、二次肥厚ができるか。
6. 胚盤の一端に腹突起を生ずるか。
7. 胚帯形成において、逆転がみられるか。
8. 胚帯分節において、触肢節の形成が早いか、歩肢節の形成が早いか、それとも全体がほとんど同時にできるか。
9. 前体部付属肢の発生は、前方のものが早いか、それともほとんど同時か。
10. 後体部は前、後両腹部に分かれるか、また分かれず一体となっているか。
11. 胚期に腹部第1体節が消失するか。
12. 後体部の発生様式は前屈型か、後屈型か。
13. 後体部に付属肢が発生するか。
14. 後体部末端に付属物が生ずるか。
15. 体側器官を生ずるか。
16. 脳形成に際し頭巾を生ずるか。
17. 卵歯を生ずるか。
18. 胚膜を生じて胚体を被うか。
19. 腹柄を生ずるか。
20. 背甲は分節構造を示すか。
21. 眼については、複眼を生ずるか。単眼の場合、それは中眼だけか、側眼だけか、それとも、中眼と側眼の両方を生ずるか。
22. 鋏角ははさみになっているか。
23. 触肢ははさみになっているか。または感覚肢として発達しているか。
24. 第1歩肢は感覚肢として発達しているか。
25. 触肢や歩肢ほどの程度、口器の形成に参加しているか。
26. 胸板の発達程度。またそれは分節しているかどうか。
27. 呼吸器は鰓か、書肺か、気管か。
28. 心門は多いか、少ないか。
29. 腹部に神経節があるか。
30. 交尾器を生ずるか。
31. 精包をつくるか。

これらの事項について、各目それぞれ共通点 $\frac{1}{3}$ 以上を有する場合をとって、それらを点線でつなげれば次の図のようになる。



これをもとにして、クモ類諸目間の類縁を発生上よりさらに吟味してみたい。

6. タマヤスデの日周活動と行動

(小岩高校) 篠原圭三郎 (11.10~11.30)

昼 食 (11.30~12.30)

午 後 の 部

7. カニムシの胚哺育について

(東教大) 牧岡俊樹 (12.30~12.50)

カニムシ類にみられる胚哺育の現象は、同じ蛛形類の一員であるサソリモドキなどのような胚哺育の型から発達したものと考えられるが、その栄養供給の様式は、他に類例をみないものである。ここでは、コケカニムシ亜目に属するイソカニムシを用いて、親から胚あるいは幼生への栄養供給の過程を、主として組織化学的にしらべた結果を報告する。

8. 台湾クモ類採集談

(広島大) 鈴木正将 (12.50~13.20)

9. カブトガニの発生について

(東教大) 関口晃 (13.20~13.50)

10. カニムシについて

(東雲短大) 森川国康 (13.50~14.20)

休 憩 (14.20~14.30)

11. 日本産造網性クモ類の生態的分布について

(桂高校) 本川重義 (14.30~14.50)

本講演において、日本に生息する造網性クモ類の分布を群集生態学的な角度から論及するが、論述の過程は次のように行う予定である。

1. 真正クモ類を生活様式の見地から分類し、造網性クモ類を造網様式を規準として分類する。
2. 観察研究の結果得られた造網性クモ群集の内部構造性の存在について立論する。
3. 日本およびその周辺の造網性クモ類の群集型を分類し、それらと habitat の関係について報告する。
4. 造網性クモ群集の地理的分布について、habitat ごとに報告する。
5. 造網性クモ群集の複合体 lump が地理的にみてどこの地帯で遷移するかについて推論する。

なお時間が許されれば、本研究の発想の由来や困難点にも触れて、諸先輩の御容赦を得るとともに、今後の研究への御批判を仰ぎたい。

12. 関東地方の真正蜘蛛類について

松本誠治・新海棠・
浜村徹三・大河内哲三 (14.50~15.10)

関東諸県の真正蜘蛛類の調査は近年急速に進み、すでに栃木(浜村)・千葉(松本)・茨城(菅波)・埼玉(大河内・遠藤)・東京(新海)からは相当数の種が報告されている。今回はこれらの県の他少数ではあるが群馬・神奈川の記録を含めた、関東地方のクモの動物地理学的構成・科別種類数の比較ならびに分布上の問題種(個有種(フタバヤチグモ他)・多産種(カチトキナミハクモ他)・採集可能性のある種(コガネエビグモ他))及び垂直分布(シロタバヒメグモ・チリドクグモ・クサグモ等の高度差による分布状況)などについて現在までの調査状況を報告する

13. アメリカシロヒトリの天敵としてのクサグモ類の研究(III) (コクサグモの天敵としての効果試験)

(国立音大) 菅嶋 泉 (15.10~15.30)

アメリカシロヒトリに対して、クサグモ類(クサグモ、コクサグモ)が、どのように働くかの実験を1963年度から1966年度の4年間行った。その結果かなり有効に働くことが判明したのである。それで1967年より今日まで効果試験を桑園で行ってみた。クサグモ類の中で、桑樹に対しては、コクサグモの方がクサグモより、定着性と捕食率も高いので、この実験にはコクサグモのみを使用した。アメリカシロヒトリの幼虫が成育して、集団生活から分散生活に入り、それぞれ独立して加害しはじめると、加害状況を適確に判断することが出来ない。幼虫の初期の集団生活をしている、その一群を加害の一単位として、これを数えて実験区と対照区とを比較し効果を調査した

毎年実験区には6月上旬にコクサグモを200頭を放った。対照区はやはり6月上旬にコクサグモを除去する作業を行って、一応一頭もない状態にした

14. オヒキグモ(Aracknura Sp.) について

植村利夫 (15.30~16.00)

1969年7月12日、伊豆高原(大室山麓、ホテル伊豆高原の裏の林中)でオヒ

キグモ *Arachnura* sp. の成♀ 1頭を採集、生きたまま持ち帰って庭に放飼し、その生態と形態についてしらべた結果を報告する。なお、採集時に卵のう 1個が網の上部に吊されていたので、それも生きたまま持ち帰り、発育過程の研究資料とした。

1. **形態の特徴** 体長約25mm、尾部は極めて細長く、腹部のふくらんだ部分とほぼ同長、先端部に白色長毛を密生しフサ状を呈する。その毛総突起の基部にそれよりやや短い4本の突起（背面の2本は下面の2本より長い）があり、何れも先端部だけが白く他は黒色。

2. **網性** 幅30cm位のキレ網で、上部2区画に様糸がない。横糸の数は下部ほど多く、そのため全体の形は馬蹄形に見える。タテ糸16本内外、横糸14本内外。

3. **網の更新** 毎朝3時～5時の間に網のはりかえを行なう。作業中は尾部を直角に立て、網を大きくふりながら進行する。雷雨などがくると網をこわし、タテ糸だけで待機する。

4. **産卵と卵のう** 7月12日採集時に卵のう 1個あり。7月12日第2回産卵、7月28日第3回産卵。産卵の時刻は網をはりかえる前で1時～3時頃と思われる。卵のうの形は上部に細く下部に太く、クモの静止した形に似ている。（クモは頭を下に尾部を上にしてとまっている）卵のうの大きさとクモの大きさも似ている。

5. **発育** 卵のうⅠを7月23日に切ってしらべてみたらすでにフ化していた。7月25日第1回脱皮、7月29日第2回脱皮（時刻は朝）卵のうⅢ、7月28日産卵、8月8日フ化直後、8月12日第1回脱皮、8月17日第2回脱皮。幼虫（未脱皮）は♀♂共淡黄色、アルコールに入れておくと白色となる。第1回脱皮で♀は黄褐色、♂は淡黄緑色となる（腹部側面に5本の緑色線が現われる）ので明瞭に区別できる。♂は第1回脱皮で亜成体、第2回脱皮で成虫となる。体長は1.5mmしかない。第1回脱皮後の♀♂を卵のうの外に出すとさかんに動きまわり、スジ網をはるが自ら外に出てくることはない。卵のうから出るのは第2回脱皮後である。

6. **腹部形態の変化** 産卵終了後、腹部（特に尾部）は著しく縮少し、4本の突起も短くなる。7月12日に体長25mmあった♀が8月10日には16mmになっていた。生活旺盛な時にも尾部は伸びたり縮んだりしているようである。

7. **種の問題点** このクモは *A. logio* であるか、*A. melanura* であるか、あるいはそれ以外のものなのか、それを決定することは非常に困難である。な

ぜならばこのクモの腹部は時期によって著しく形が変わるからである。大体は *A. logio* の原記載に一致するが、形態・生態の面で多少不一致の点があるので、種名決定は後日にゆだねる。なお、宮崎県で小野が採集した *A. logio* (ATYPUS No. 41~42の口絵写真) はこのクモと恐らく同じもの(産卵終了後)と思われる。

以上の研究で最も重要なことは、♂は卵のうちで2回脱皮して成虫になるという一事である。ナゲナワグモ *Mastophora cornigera* の♂も2回の脱皮で成虫になるものと推定されているが、それがまちがいでないとすれば、このような例は現在のところ2例だけである。このようなクモの♀♂関係はいったいどうなるのであろうか。まことに興味ある問題である。♀はおそらく来年の夏まで成熟しないであろうし、♂はそれまで生きているかどうか疑わしい。

15 *Nesticus* の変異と分布について

(追手門大) 八木沼健夫 (16.00~16.30)

洞窟産 *Nesticus* にもとづき隔離と種の分化の関係を研究中であるが、今回はそれらの基礎資料となる変異と地理的分布の関係を述べる。種の分化の要因は多種多様であるが、それを究明するためには先ず具体的な状況を数多くの資料によって把握することが必要である。これまでに得た全国約90の洞窟の200個体を比較すると、短肢型のものゝ長肢型のものゝに2分される。前者は洞外のリター中に多く、後者は洞内に多い。長肢型は雌の epigynum の形態から東日本型と西日本型に分かれる。この両型はさらに地域的にあるまとまりをもちた群を形成し、群と群の間には断絶があり、類似性がある。一群の中でさらに洞窟ごとに大なり小なりの変異の見られるもの、群内の洞窟間では変異の見られないもの、またその変異は安定したもの不安定なもの、連続するもの不連続のもの、種的段階から品種的段階あるいは極めて微少な変異にいたるさまざまな相を示す。これらの具体的事実を説明する。

質 疑 応 答 (16.30~16.50)

閉会の挨拶

八木沼健夫 (16.50~17.00)

祝 東亜蜘蛛学会第一回大会

**ACTA
ARACHNOLOGICA**

蜘蛛学雑誌

Vols. 1-9 (1936-1945) 上製本 3冊 ¥24,000

Vols. 10-21 (1947-1969) 覆刻版含 各冊 ¥300

覆刻版・会員一割引 残部僅少

東大正門前

東京都文京区
本郷6-16-3

文生書院

振替 東京 12686
TEL (811)1683代

祝 東亜蜘蛛学会第一回大会

最高の歴史・最高の品質 **昆虫と植物の**

採集の用具なら、日本でただ、一軒の最も信用ある当社へ今すぐ、35円切手を入れて、お申込み下さい。専門のすばらしいカタログをお送りいたします。

株式 **志賀昆虫普及社**
会社

東京都世田谷区善行1丁目7番6号 電話 東京 409-6401
振替 東京21129番 郵便番号 150

祝 東亜蜘蛛学会第一回大会

生物学書専門

井上書店

東京都文京区本郷6-2-8 東大正門前

TEL 811-4354

動植物学特輯古書目録30発行

東亞蜘蛛学会会報 (1)

Jan. 1971

会費受領 (敬称略)

— 1月26日現在 —

[昭和44年度]

内田 亨 山本 真吾 柳本 信吉 三好 保徳

[昭和45年度]

草深 悟志	牛田 清彦	田中 悦子	増本 哲生	野戸 章	和田 修
佐藤 智子	清水 和雄	福田 喬彦	清水 裕行	追手門大学	別府 義昭
山川 要助	水木 隆治	渡辺 淳一	井上 明夫	正置 文則	后开 哲夫
清治 暢子	川淵 謙介	清水 善夫	村上 勝	井伊 伸夫	浜田 竜一
杉 泰昭	小野 勇一	山本 虎夫	山口恵美子	服部 睦作	佐々木 秀吉
秋山 隆史(+)	本田 重義	小泉 看樹	田所 秀忠	甲子 崇	下瀬名松深
貝尾 憲治	柴 浩	小田原高枝	白 甲鐘	南宮 煥	Cutler
城 成治	坪田不二雄	関口 晃一	田中 雅生	木暮 正孝	松井 均
染地 満男	藤枝東高枝	長坂 治余	白崎 孝	山内 崇	小林 久俊
有田 立身	徳田 憲一	藤本 豊又	吉田 董	中川宗次郎	本郷 登輝
[昭和46年度]	山口 欽男	野々垣正忠	梅林 力	北前 芳幸	大久保 襄
須賀 英文	湊 宏	高家 博成	奥津 伸二	佃 一郎	入江 照雄
Monroe, R.	今村 泰二	小野 辰嗣	田中 昭徳	西原 安雄	吉田 洪一
八木治健氏	黒尾 和義	石浜 鏡寿	棟方 明助	高秋 雅子	高田 勝
高田 誠	安田 博史	鈴木 恵一	[昭和47年度]	近藤 和徳	鈴木 三将

入会・住所変更・町名変更・訂正

(46. 1. 31 現在)

井伊 伸夫	657	神戸市灘区国王通り2-	高 (入会)
佐々木 秀吉	018-57	秋田県北秋田郡比内町宇板戸 (秋田宮林 町宮林署)	黒枝 (入会)
山口 恵美子	630	奈良市元興寺町21 宮沢幸次氏方	大 "
貝尾 憲治	517-32	三重県北牟婁郡紀伊長島町東長島 宮原 久一氏内	高秋

濱	清	299-24	愛媛県北条市谷甲40	中	(入会)
生	物	250	神奈川県小田原市城山3-26-1 県立小田原高等学校	高	〃
水	菘	299-21	山形県山形市泰山126	高	〃
田	中	263-25	熊本県天草郡苓北町富岡 九大天草臨海 実験所	大教	〃
公	井	275	千葉県習志野市大久保3-7-19 田中氏宅	大	〃
山	内	601-22	京都府北条田原美山町字差	中教	〃
長	坂	431-04	静岡県浜名郡湖西町太田515-1	小3年	〃
黒	佐	171	東京都豊島区池袋町5-21-15 (東大医研)	医師・助二	〃
藤	本	611-11	兵庫県姫路市大津区天神町2-110-1	工高専	〃
清	治	270	北海道札幌市白石区吹町7丁目	高	〃
吉	田	320	東京都市碑町320-4 岩崎明氏宅	大	〃
井	上	182	東京都羽布市園領町3-10-4	大	〃
永	倉	275	国志野市大久保3-5-2 伊藤荘	大	〃
高	橋	210	川崎市親奇1-137	高	〃
山	本	649-23	和歌山県西牟婁郡白浜町原大野戸島高実 実験所	南紀生物上幹	〃
西	原	113	東京都文京区千駄木2-2-15	中	〃
別	内	297-19	鹿児島県川内市水川町4262	中教	〃
坂	部	260	札幌市南2条西75丁目 北海道立生 物研究所 野生動物学科	〃	〃
甲	川	985	宮城県塩釜市祖町1-1	高	(訂正)
佐	木	990	山形市小町状町8-3 大瀬氏方	大	(住・変)
玉	物	970	山形市松山1丁目1-25 県立山形中 央高等学校	高	(断・変)
渡	辺	965	福島県会津若松市門田町大字黒岩字花見 5丘105 鈴木春長氏方		(住・変)
日	学	365	大阪市下区千代町1-3 岸多様父東高等 学校	高	(訂正)
辻	藤	275	和歌山県和歌山2-1-37 和歌山大学理学 部生物学教室	大教	(住・変)
山	松	390	松本市笹部町見町7-1		(断・変)
十	田	299-82	長野県南安曇郡豊科町4510		(断・変)
久	志	649-21	和歌山県西牟婁郡上富田町富田1974 芝崎佐三氏方		(訂正)
山	口	202	京都市上京区福今出川F1L西陣P10- トC10号		(冠名変)

福本伸男	679-41	兵庫県豊野市揖西町中垣内中535 菟飼 住宅8号	(住・変)
鈴木正将	730	広島市東千田町 広島大・理学部動物学 教室	(訂正)
坂 成治	747-13	山口市大内堀山国地	(住・変)
山口鉄男	856	大村市厚町片町住宅1号	(町・変)
木村彰男	063	札幌市北1条西27丁目	(訂正)
中平清	781-02	高知県吾川郡春野町芳原600	(町・変)
小野裕二	700	湖山市津島土生24/3-41 河部美谷代氏方	(住・変)
山川豊助	514-12	三重県久居市神原町	(町・変)
畑 一郎	406	山梨県東八代郡石和町四日市場1647	医師 (入会)
西川善朗	564	大阪府吹田市山田下2830-14	(住・変)

会員名簿作成の料 前年7月に発行していましたが、4月に住所変更(入学・卒業・転勤など)の方が多く、次回から5～6月頃に発行したいと思います。変更訂正は会報により御承知下さい。

住所変更、町名変更の場合はすぐ本部に連絡して下さい。

中川 泉次郎	572	大阪府寝屋川市三井380-29A37-4	(住・変)
高田 勝	215	神奈川県川崎市万福寺514ゆりハイソク	(入会)
向井 哲夫	466	名古屋市昭和区長池町3-39西尾乗正氏方	大 (入会)
水沢 正明	940	新潟県長岡市中沢町1134	(住・変)

東亜蜘蛛学会第3回大会

本年は動物学会大会が仙台(東北大学)で行われますが、この機会に東亜蜘蛛学会大会第3回大会を開催する予定です。

本会会員の分布状態と、集合の便を考慮して蜘蛛学会大会は、第1回大会のように東京で開催します。日・場所、その他詳細は後でお知らせ致します。

会長選出の件

本会会長であった福井玉夫博士ご逝去後、後任がさまっておられませんので、暫定的に本部事務にたずさわっている八木沼が一応代表者として会長事務取扱を行っております。早く会費(会)を決定したいと存じますが、選出方法や候補者などにつきご意見をおきかせ下さいませようお願い致します。

因みに昭和11年創立当時の会則には「本会役員は年会に於て創立会員の投票によりて決す」とあります。ただし、この規約には会長選出の件は記されてなく、役員中に代表者があるのみです。なお創立会員はその後廃止になっておりますし、当時の創立会員は現在わずか数名しか残って居られません。

- New Zealand. N.Z. J. Sci., 12(4), pp. 811-814, '67
- 627 Ramsay, G. & M. Laxton: A redescription of the type specimen of Crotonia (= Aeronythrus) obtecta (Acarid, Cryptostigmata) and a discussion of its taxonomic relationships. Ent. Hist., 4, pp. 473-480, '67
- 628 Ramsay, G.: Phoretic mites associated with insects. N.Z. Ent., 3(5), pp. 6-7 '67
- 629 Collyer, E.: A description of the female Ipsiscelus acaridophilus and of Tropacarus barkeri n. sp. and their association together. N.Z. Ent., 3(5), pp. 11-15 '67
- 630 Ramsay, G.: Three new box-mites from the Brothers, Cook Strait, New Zealand. N.Z. J. Sci., 9(4), pp. 701-712, '66
- 631 Wood, T.G.: The fauna of Grassland soils with special reference to Acari and Collembola. N.Z. Ecol. Soc., 13, pp. 77-85, '66.
- 632 Ramsay, G.: Two new oribatid mites from a New Zealand pasture. N.Z. J. Sci., 9(2), pp. 416-425 '66.
- 633 Wood, T.G.: Mites of the genus Ledermueelleria from New Zealand, with records of one species from some Southern Pacific Islands. N.Z. J. Sci., 9(1), pp. 84-102, '66.
- 634 Wood, T.G.: Three new species of Asca V. from New Zealand, and records of Asca from some Southern Pacific Island. N.Z. J. Sci., 9(1), pp. 41-49, '66
- 635 八木沼便夫・西川喜朗: JIBP 主調査地、石鐘山地域の動物相調査報告-VI, 1967
年石鐘山における真正蜘蛛類相の調査. JIBP-CT, 1967, pp. 63-77.
- 636 白井 正義: 千葉県産真正蜘蛛類目録. 千葉県動物学基礎資料, 第1集, pp. 55-66, '68.
- 637 東京ワモ談話会: KISHIDAIA, NO. 14
- 638 " : " , NO. 15
- 637 松本 誠治: 磐梯高原のワモ. 都立研究会, (6), pp. 19-22, '70
- 640 Park, W.H., & K.S. Woo: Spiders from Mt. Jiri (Korea). Kor. J. Pl. Prot., 1(2), pp. 105-107, '66
- 641 大田善一郎: くもの糸とその業. 庄内博物館研究録第4輯 1949.
- 642 British Arach. Soc.: Bulletin, 1(4), pp. 1-18, '70
- 643 Vogel, B.R.: Taxonomy and morphology of the stegalis and falcifer species groups of Pardosa. The Arachn. Soc. Trans. 1-5, figs. 1-112, '70

クモの文献 (含多足類)

1. Suzuki, J. : Some phalangids from Thailand. *J. Sci. Hiroshima Univ.*, B, 1, 22(3) '69
2. " : On a collection of Opilionids from southeast Asia. *J. Sci. Hiroshima Univ.*, B, 1, 22(2), '67.
3. 木内盛輝・吉田正隆 : 徳島県の洞窟動物相. 徳島県博物館紀要 (1), pp. 41-62, '70
(クモの記事あり)
4. 城 成治 : クモの研究. 生物研究, 9(2), pp. 21-23, '70
5. 下謝名松栄 : 動物の地理分布をどう指すしたらよいか. 琉球列島のクモ類 — リスト, 分布
沖縄生物教育研究会誌, (4), pp. 38-58, '70
6. 片山栄助 : クモの巣に寄生された Mezocille tsurugensis の巣について. *Kontyû*,
38(2), pp. 162-167, '70
7. 赤間日吉 : 盲蛛目. 日本農獣医学部動物研究会会報, (14), p. 70, '69
8. 植村利夫 : 伊豆で見られたオヒキクモの研究. 城前紀要, (6), '70
9. " : 日本産オヒキクモの記載. 都生研会誌, (6), '70
10. " : 設備変更と改活生長に関する研究 (既報 10篇の合冊) '70 森重出版
11. 徳本 洋 : 七尾市史資料編 4(動物) クモ pp. 210-213, '70
12. 小林 尚・奥 俊夫 : 東北地方の夏作物畑における節足動物群集に関する研究. 東北農試研
究報告, (40), '72.
13. 中千 清 : 理科の窓 (高知県科学教育研究会) Vol. 20. ほとんど各号にクモに関する記載あり.
14. 朝日新聞 (名古屋本社) : 珍しいクモ紀伊長島で見見 — 一石と互で色違い. 45. 11. 28 (土)
2頁 10面

文献複写に志じます

学会で文献複写のお世話をすることになりました。学会図書館のほか個人所有の文献を複写致します。

電子リコー B4 (20~25円), A4 (15円~20円), B5, (10円~15円)

料金はその時の事情により多少変動がありますのでお念のため。入金がはっきりしない場合は、内容を具体的に示して下さい。適宜のものを選んで複写します。

東 亞 蜘蛛 学 会

購入可能文献

福岡市工芸服飾 3-150 タトル商会から次の文献入手可能の連絡をいただきましたので御紹介
します。①冊は多岐あり、すぐ購入可能。他は海外よりとりよせ。

Title	Price	Author	Publisher
Tarantula.	\$ 3.00.	Berg, William J.	U. of Kans
Comity of Spiders. 2 vols. 1939-41.	18.00.	Bristowe, William S.	Johnson Reprint
Ten little nousemates. 1964.	3.25.	Frisch, Karl von.	Pergamon.
Spider book. 1948.	12.50.	Comstock, John H.	Cornell
Spiders and their kin. 1969.	1.25.	Levi, Herbert W., and -orna R.	Golden Press
How to know the spiders. 1953.	3.50.	Kaston, B. J.	Brown, W. C.
Spider's web. 1952.	2.25.	Savory, Theodore H.	Warne
Spider's web: Problems in re- gulatory biology. 4. 1969	9.00.	Witt, P. N., and others.	Springer
Spiders of Southern Africa. 7.00. II. 1969.	7.00.	Yates J. H.	Tri-Ocean
Hundred new species of American spiders. 1942.	1.00.	Chamberlin, Ralph V., and Wilton Ivie.	U. of Utah
Spiders of the Georgia region of North America. 1944.	4.50.	Chamberlin, Ralph V., and Wilton Ivie.	U. of Utah
Guide to Australian spiders. 7.00. II. 1965.	7.00.	Clyne, Dencey.	Tri-Ocean
Australian spiders. 1963.	5.50.	Mckeon, n, Keith C.	Tri-Ocean
Australian spiders. in colour. 1970.		Muced, Ramon.	Charles E. Tuttle
Spiders of Australia.	2.95.	Main, Barbara.	Tri-Ocean
Amber spiders in European collections. 1958.	7.00.	Petrunkovitch, Alexander.	Shoe String
British spiders. 2 vols. 1951-1953	20.00.	Locket, G. H., and A. F. Millidge.	Johnson Reprint
Agelenid spiders of the genus <i>Cicurina</i> . 1940.	1.00.	Chamberlin, Ralph V., and Wilton Ivie.	U. of Utah
Genera of North American <i>Sicynidae</i> . 1948.	3.60.	Chamberlin, Ralph V., and Wilton Ivie.	U. of Utah
Spiders of Alaska. 1947.	2.00.	Chamberlin, Ralph V., and Wilton Ivie.	U. of Utah
Common spiders of the United States.	4.00.	Emerton, James H.	Smith, later
Common spiders. 1902. (上記の再版)	2.00.	Emerton, James H.	Dover

学会在庫図書雑誌

1. ACTA ARACHNOLOGICA Vol.1 - Vol.9 (3冊:製本)
 1936 - 1945 (各巻4号), 和文 各 24,000.-
 東亜蜘蛛学会会員に限り 各 21,000.-
 申込は東京文生書院または東亜蜘蛛学会へ
2. ACTA ARACHNOLOGICA Vol.10 以降
 10 (1, 2), 11 (3, 4), 11 (1, 2) 11 (3, 4)
 12 (1, 2), 12 (3, 4), 13 (1) 13 (3)
 13 (3, 4), 14 (1), 14 (2) 15 (1)
 15 (2), 16 (1), 16 (2) 17 (1)
 17 (2), 18 (1), 18 (2) 19 (1)
 19 (2), 20 (1), 20 (2) 21 (1)
 21 (2), 22 (1), 22 (2) 23 (1)
 申込は文生書院または学会へ
 各 300.-
3. ATYPUS
 1 ~ 29 (絶版), 30, 31, 32, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 43, 44,
 45, 48, 53, 54, 55 (1, 2, 3, 4)
 各 300.-
 33/34, 41/42, 46/47, 49/50, 51/52
 各 400.-
4. ARACHNOLOGICAL NEWS (東亜蜘蛛学会会報) (支那支那支那)
 NO.1 (再刊) 125 (16頁) NO.2 50 (4頁) NO.3 50 (4頁)
 各 50.-
5. 植村 利天 : オヒヤクモに関する論文選 (2冊合本) 東京大学 1951年 各 300.- (1冊)
6. 萱嶋 栄 : 三多摩地方のクモ 1951年 各 365.- (1冊)
7. 新海 栄一 : 東京都産真正蜘蛛類 1951年 各 665.- (1冊)
8. 八木沼健夫 : 既発巻別蜘蛛類の分布をめぐりての考察とその関係の地下生活 1951年 各 480.- (1冊)
9. 八木沼健夫 : クモの話 (北隆館) 1951年 各 480.- (1冊)
10. 八木沼健夫 : 原色日本蜘蛛類大図鑑 (編者監) 1967年 各 2400.- (1冊)
11. 岸田 久吾 : ノミの検索表 1951年 各 100.- (1冊)
12. 三井 良久 : Tachyoid Smutaria of Japan 1951年 各 2,000.- (1冊)

論 文 別 刷

1. 既刊 *Acta Arachnologica* の掲載の別刷については、それぞれ著者に問合わせて下さい。

A: YPLS の別刷を作っておられる方もありますから必要の方は著者におたずね下さい。

2. 次の別刷は著者から「希望者へ差上げて下さい」と寄贈されたものです。送料・封筒代・雑費として1部につき 50 円 (切手で可) でお送りします。報文に大小ありますが一律に 50 円ということになりました。御水下さい。

歡迎の返事はのりもわり、早知れのとときはあしからず。

- (1) 石野田辰夫：霧島山のクモ (霧島山総合調査報告書 pp. 285-298, 1969)
- (2) 村井 エー：上関町長島(山口県)のクモ (山口県の自然, Vol. 3, No. 2, pp. 38-39, 1969)
- (3) 竹野達太郎：岩手県産真正蜘蛛類 [I] (理科の研究, 昭和38年度 pp. 1-16, 1963)
- (4) 松本 誠治：千葉県産真正蜘蛛類 (1) (千葉県動物誌基礎資料 6, pp. 67-77, 1967)
- (5) 同 上：同上 (2) 7, pp. 49-54, 1968
- (6) 本田 重義：日本産造網性クモ類の群集型とその分布 (日生態会誌, 19(1), pp. 27-35, 1969)
- (7) 小野 辰嗣：豊後高原の真正蜘蛛類 (*Biologia* 9, 36-39, 1970)
- (8) 篠政二郎：五ヶ所山脈のクモ類 (自然教育園の生物調査に関する調査報告書 1 号, pp. 124-128, 1966)

次の書物はクモの参考書ではありませんが、研究者の必読のものと思われまので紹介します。

1. 吉井良三：洞穴から生物学へ。NHKブックス 125。 単 380.-
2. T. H. Savory: *Animal Taxonomy*. Heinemann Educational Books Ltd, London. 101p. 約 1200.-

日本の真正蜘蛛類相 (国立科学雑誌 13(4), pp. 639-701, 1970)

上記別刷の本文は既に作済み、すでにお送りしましたが、もし御注文下さったのに届かない方がお見えしたら至急に連絡下さい。内容は刻々とかわつて行きますので、今後の訂正や増補は A: YPLS に届けますからご注意下さい。なお記事についてお尋ねの旨がありましたらお返しいたさせていただきます。